

二中のあゆみ

第二中学校の沿革

昭和二十二年	五月 一日	鎌倉市立第二中学校 発足
昭和二十二年	五月 五日	鎌倉市立第二小学校において開校式挙行
昭和二十二年	三月三十一日	藤沢市立第四国民学校・島村虎雄校長、初代校長として着任
昭和二十四年	四月 一日	神奈川師範学校代用附属中学校となる
昭和二十四年	四月 十五日	神奈川師範学校・竹村安太郎教授、第二代校長として着任
昭和二十六年	五月 一日	神奈川県立立野高等学校・秦芳康校長、第三代校長として着任
昭和二十九年	三月 十六日	独立校舎起工式を挙行
昭和二十九年	七月 十二日	独立校舎上棟式を挙行
昭和二十九年	十二月 十三日	新校舎竣工全校移転完了
昭和三十一年	三月 十六日	付帯工事完成、落成式を挙行
昭和三十一年	十一月 九日	校歌発表（現在の開校記念日）
		作詞・加藤省吾 作曲・八洲秀章
昭和三十四年	一月 十日	二教室増築祝賀式を挙行
昭和三十四年	四月 一日	県社会福祉事業研究普及校に指定される
昭和三十四年	八月 一日	厚木市立厚木中学校・伊藤義一校長、第四代校長として着任
昭和三十五年	十一月 九日	開校記念日を定める
昭和三十五年	十二月二十八日	第三棟校舎落成
昭和三十六年	三月三十一日	横浜国立大学学芸部代用附属中学校をとく
昭和三十七年	三月三十一日	技術科教室落成

昭和五十七年	十一月 八日	鎌倉市教育委員会指定研究発表会開催 研究主題「学校の創意を生かした教育活動の展開」 大日本猟友会より野鳥愛護校の指定を受ける
昭和五十八年	三月二十五日	
昭和五十八年	九月 一日	鎌倉市立第一中学校・渡辺茂雄教頭、第十代校長として着任
昭和六十年	四月 一日	県愛鳥モデル校に指定される（三か年）
昭和六十一年	四月 一日	県教育庁湘南三浦教育事務所・柳田亀太郎参事兼所長、第十一代校長として着任
昭和六十二年	四月 一日	鎌倉市立第二中学校・又吉昌英教頭、第十二代校長として着任
平成元年	四月 一日	鎌倉市立大船中学校・野口昌孝教頭、第十三代校長として着任
平成四年	三月二十三日	コンピュータ室完成
平成五年	四月 一日	鎌倉市立山崎小学校・菅原恒夫校長、第十四代校長として着任
平成六年	一月 十八日	鎌倉市教育委員会委託研究発表会開催 研究主題「地域に開かれた学校づくりをめざして」
平成七年	四月 一日	鎌倉市教育研究所・須田和男所長、第十五代校長として着任
平成九年	五月 十日	市内中学校九校による「鎌倉市中学校教育五十周年記念式典」を鎌倉芸術館で挙行
平成九年	五月 十日	鎌倉市よりサブ校旗を寄贈される
平成九年	十一月 八日	同窓会・PTAの協力により正門脇斜面に「五十周年記念植樹」を全校生徒・保護者で実施

昭和三十八年	三月 三日	家庭科教室落成
昭和四十年	四月 一日	鎌倉市立腰越中学校・谷川清敏校長、第五代校長として着任
昭和四十四年	九月 一日	鎌倉市立第一中学校・庄司敏教頭、第六代校長として着任
昭和四十四年	十一月 三十日	鎌倉市制三十周年記念花壇完成
昭和四十五年	十一月 十八日	鎌倉市教育委員会指定研究発表会開催 研究主題「自主性をのばす指導」 校旗樹立
昭和四十六年	三月 十日	環境美化優良校として神奈川県教育委員会より表彰される
昭和四十六年	十一月二十七日	鎌倉市立深沢中学校・小川久美教頭、第七代校長として着任
昭和四十七年	九月 一日	遊歩山道「二中グリーンコース」を開設
昭和四十九年	十一月 九日	鎌倉市教育委員会指定研究発表会開催 研究主題「自主的に健康安全な生活を営む能力を育てるための教育活動はどうあるべきか」
昭和五十一年	九月 一日	鎌倉市立腰越中学校・山崎学校長、第八代校長として着任
昭和五十二年	三月 十三日	屋内体育館完成
昭和五十四年	九月 一日	鎌倉市立大船中学校・松岡芳二校長、第九代校長として着任
昭和五十四年	十月三十一日	校庭整備完了、スプリングクラー設置
昭和五十五年	九月二十九日	テレビ神奈川の「教育の窓」に「特色ある学校」として紹介される
昭和五十七年	一月二十九日	テレビ神奈川の「こどもの広場」で本校の自然保護が紹介される
昭和五十七年	十月 二十日	県緑化推進委員会主催学校環境緑化コンクールにおいて最優秀賞（知事賞）受賞

開校当時の二中

鎌倉市教育委員会発行
「鎌倉教育史」より抜粋

鎌倉市立第二中学校は、昭和二十二年五月五日に第二小学校講堂で開校式を挙行した。旧鎌倉町の高等科一年修了者をここに集めて中学校二年生とし、開校の年には、一年生は男子二十四人、女子十九人で一学級、二年生は男子八十三人、女子五十三人で三学級編制であった。

教室は第二小学校の西側の校舎の階上と階下合わせて六教室を借りている。

開校して二年過ぎ、最初の卒業生を送り出すころ、第二小・中学校を代用附属にしたいという話を持ち上がった。師範学校（現在の横浜国立大学の前身）の教育実習校としては附属小・中学校があったが、教育実習生を受け入れるには十分ではなく、第二小・中学校が候補に上ったのであろう。昭和二十四年三月十八日付で、この代用附属の件は県教育委員会で議決承認し、昭和二十四年四月一日よ

り、正式に神奈川師範学校代用附属鎌倉市立第二中学校となった。第二小学校も同じく代用附属小学校となっている。代用附属となるについて、第二中学校が、学区内の生徒で不足する場合は、鎌倉市内から生徒を募集するという条件もついており、二十四年度は一年六十人、二年と三年はそれぞれ五十人ずつの生徒を募集している。

代用附属ではあったが独立校舎をもたなかった第二中学校は、ようやく現在の校地を得て、昭和二十九年三月十六日に起工式を挙げる事ができた。その後七月十二日に上棟式が行われ、同年十二月二十三日に新校舎への移転が完了した。この時落成したのは、南側の校舎一棟（現在の一号棟）だけである。

昭和三十五年度末で代用附属の指定が解かれ、再び普通の公立中学校にもどっている。

このような経過もあり、市外及び市内の学区外通学の在籍者も多く、昭和三十六年度の記録によると、その割合は三七％であったとある。

この校地はかつて南陽山報国護国禪寺が建っていたあたりで、この